

映画監督

## 是枝裕和



Yukio Ninagawa

作曲家

## 笠松泰洋



Yasuhiro Kasamatsu

● 公開対談シリーズ 第4回 ●

## NINAGAWA 千の目

二十数年前の意外な出会いが結びつけた、3人のクリエイター。それぞれの分野で第一線で活躍する3人には、共通点もあり相違点もあり。三者三様のものづくりの仕方は刺激的で興味の尽きない話となった。

(財)埼玉芸術文化振興財団芸術監督・演出家

## 蜷川幸雄

● PROFILE ●

蜷川幸雄 (にながわゆきお)  
埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も『近代能楽集』ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉芸術文化振興財団芸術監督。

是枝裕和 (これえだひろかず)  
1962年東京生まれ。早稲田大学卒業後、テレビマンユニオンに参加。主にドキュメンタリー番組を演出。95年、初の映画作品『幻の光』がヴェネツィア国際映画祭金賞受賞。04年には『誰も知らない』がカンヌ国際映画祭にて最優秀男優賞を受賞。ほかの作品に『ワンダフルライフ』『ディスタンス』『花よりもなほ』がある。

笠松泰洋 (かさまつやすひろ)  
1960年福井県生まれ。東京大学卒業後、作曲を三善晃、ピアノを山根美代子に師事。クラシックの作品を発表する一方、『グリーンクス』『タイタス・アンドロニコス』などの蜷川幸雄演出作品を始めとする演劇作品や映画『ワンダフルライフ』(是枝裕和監督)、H・アール・カオス等ダンス作品に音楽を提供。03～05年、王子ホールの委託により、室内オペラ『エレクトラ三部作』を手掛ける。05年、歌舞伎座『NINAGAWA十二夜』ではチェンバロを演奏。

## 二十数年も前、若き日の笠松さんが僕を勇気づけた

蜷川 (以下N) 『NINAGAWA千の目(まなざし)』シリーズ、第4回のゲストは是枝裕和さんと笠松泰洋さんです。

笠松さんと僕、そして是枝さんとの関係という、まず、1980年に『NINAGAWAマクベス』を演出した時のことです。それは舞台一面が仏壇になっていて、その中で『マクベス』が展開されていくという、それまでのシェイクスピアと変わった、少しユニークな芝居で、私としてはとても良い作品が出来上がったと思っていますが、まったく評判になりませんでした。「こんないい作品を誰もわからないのだ」と思って、ほとんど絶望的な気分でした。そんなある日、池袋の歩道を歩いていたら、若い二人の学生が側にきて、「蜷川さんですね。あなたの『マクベス』を観ましたが、すごく良かったです」といってくれました。僕はそれに勇気づけられて、「よかった。あの作品をわかってくれる人がいたのだ」と思ったら、それが若い日の笠松さんでした。

『NINAGAWAマクベス』はスコットランドのフェスティバルで評判になり、ロンドンでも上演出るようになったのですが、東大生であった笠松さんにその時に褒められなかったら僕のあの路線は消えてしまったかもしれない。そしてロンドンに行けなかったかもしれない。

その後、ある日駅でその時の学生笠松さんにバッタリ会い、今は作曲をしていると聞いたので、「では一緒に芝居をやろうか」という事で、芝居の音楽を作って頂きました。

その笠松さんが「稽古場を覗いていいですか」と連れていらっしやっただのが是枝さんです。まだ若くて初々しい時代で、そういう関係で是枝さんは2度ほど稽古場を覗いていたと思います。

笠松さん、是枝さんどうぞ。(拍手に迎えられ、お2人登場)

## 二人は真逆。蜷川さんは北風で、是枝さんは太陽

N 是枝さんの最新作の『花よりもなほ』は初めての時代劇ですが、なぜ時代劇を撮ろうと思ったのですか。

是枝 (以下HK) まだ映画をやって10年ですが、僕はドキュメンタリーのTV番組からスタートしたので、その映画の中のリアリティの根っこに何かナチュラルなものとか、実際に生きている人、役を演じる人たちの生活の中に持っているリアリティみたいなものをもらってきて映画を作るということを結構やってきたのです。が、そういう作品が続いた時に、ナチュラルだけがリアリティではないだろうという気持が自分の中にあっただので、ドキュメンタリーの根っこと違うところで一本きちつとフィクションをやってみたいと思い始めたのが4、5年前で、それがようやく一本できたという感じです。

N 大変でしたか。

HK ゼロから作っていくという作業だったので自分ではすごく新鮮だったし、撮影所の中で撮影するのも初めてだった。一番今までと違ったのは照明で、照明を待つという時間をどう使うかというのが自分では今回はチャレンジでした。今までだと、芝居をやってみて「では撮ろうか」というとすぐにカメラを回すという状況で映画を作ってきましたが、今回は「これで行きましよう」と言ってから、「では照明を直します」と言われ1時間くらい時間がかかるので、その間に自分が「これ

で行こう」といった芝居が残らなくなってしまうのです。その時間を無駄にせずに芝居を残しつつ、どう撮影に臨むかというのが最初は戸惑いました。

N スタッフには「もっと早くならないの」とかは言わないのですか。

HK 僕は言いません。

N 僕は態度で、(手で小刻みにリズムをとる仕草で)手はこうなってしまう、「まだ?」とか、そのうちにだんだん「すぐ撮れるようになんとか出来ないの!」と声が荒立ちますが、是枝さんはそんなことが穏やかに出来るんですね。

HK 内心は本当に心の中でどなっています。やはりいままで一般の方とか子供を撮るということが続けてきたので、その辺りの忍耐力はちょっとあります。

笠松 (以後YK) お二方は真逆ですね。両方とお付き合いしていると、演出家の役割とか、スタッフと俳優に求めるものが蜷川さんは、極限状況に立たせてその先に何が出てくるかを見せろというタイプで、最初にぱっと追い込むので、稽古初日はだいたいバーンといきます。蜷川さんの言葉はここでは言えないような言葉がたくさん並ぶのです



が、初めての俳優さんは「これはすごい所にきちゃった」とすごく緊張しますが、追い込まれると自分の内面が出るということもあると思います。

そして是枝さんはいかに自然にリラックスしてられるかという感じで、出演者の普段は出せないような内面を是枝さんが引き出してくれるという感じでやっていると思います。「北風と太陽」という感じです。

N 俺は北風?

YK 北風はすごく強いので、マフラーもコートも飛んでいってしまうという感じで、結局裸になってしまいます。

N それはすごくわかる。

『花よりもなほ』では長屋が主な舞台ですが、長屋ってすごく撮りにくいですね。狭いし、ある条件の中で長屋は色々な方が撮っているから、新しいカットを撮るにはどこへカメラが行ったらいいかとか、どうやったら新しい長屋が作れるかについては、僕が撮った映画『嗚う伊右衛門』の長屋も結構苦労しましたが、そういうことはなかったですか。

HK それは最初に思いました。長屋をどう撮るかが一番のテーマになる映画だと思ったので、傾斜に長屋を作りたいと美術の方に最初にお願いして、坂道の途中に点々と長屋があって、下りてくると井戸があるという、下りながら曲がっている所に長屋らしきものを作りました。平面になってしまうとどうしても画面の奥行きが出しにくいと思っ